W391
N34

蒙古軍事

農類　木類

秋田杉物語

抜書

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

陸奥

蠱毒二十五後

蚊　和名加豆伊　夜飛細身利喙害人　白夏半秋半
迄り処こゝかしこに有　遅速奥山里浦濱　こゝかしこ海邊
さゝなれ　なれ処より蚊さりこゝ樋ノ鉢辱　蚊蝱蚤　蚤ハ樟
脂枕室ノ内　活海陰　ヨシ　ノサルメヘ　ヒヲ　ノ　ノ　ノ　ノ　ノ
ヨシ　樟脳　硫ヲ　香油　和ノ　塗ヨシ　又藥　浸ス　痒
病去　月令廣義曰　祛ノ　鼈骨燒烟ノ　即死　鱗鱗
骨次ニ　中ノ　渚矣　骨燒烟　皆奇　祛ノ　瑞鄉代　碎曰　古淚
云霧　溜　蠅　鼈　粘露　下而ノ　喙　折月　塵而　奠　脳　城」
蚊ノ　内　敷也　蚊ニ　小ノ　黒ノ　班文アリ　山里ノ　水也　草中ニ
居　畫出テ　人ノ　搔　痛　甚シ　毒ニ　去　赤草
口　搗　秋　葉　傳ニ　則　愈　次　治水　汝ニ　擦　塗　少許　即　愈」

01W50709

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

蠶ノ
相ノ
蠶

檐下路傍ナト群ヲ舞巡ル数ヲ少シ人ヲ石螫
ス。

和名抄 形蠅 ニ似テ大ニ色黄也 草木ノ花ヲ吸ノ
ミ人ヲ馬ニ不咬 螫ニモ痛ミナシ 考ニ 紫蠅ノ當国
俗ニ云馬蠅ナリ牛馬ヲ螫人ヲモサス

蠅 夏月多ク當国ノ俗ニハルート称シ 六月ヲ盛ト
ス 形長サ三ツ分 常ニ羽落リ六足ニテ飛リ身黑ク腹ヲ
青ビ密ヲ塗ノ如ク 又背ノ真中ニ後ニ減少スル 牛蠅 形小ニ
黑ク白点ヲ又錦色或ハ黄星見ル 有ニ夏月多ク秋
ヲ減ル山野ニモ多シ 牛馬ヲ刺テ敏血 又人ヲモサス。

蚤。 俗ニ七ー上ニ出ル 両月盛ク多シ

竹蝨 竹ノ葉ニ付白点也 人ニ咬ル痒痛ム 木

草花ニ載

蟹 夏月草中ニ多シ 折節人ニ咬ム 酸栗仁ノ
如ク大ク 胴扁ニ似リ 牛馬犬ニ多シ 若ハ 蚊 蟹ニ吸 節ハ草
陰ニ入ル 血ヲ栗ノ如ト云ヘリ 本草ニ出ル

蜻蛉 スクモムシ ノ農家ニ多シ 夏秋蛻ヲ蟬ト云 孟子ニ曰井有
李螬喰実 集註ニ李螬リ蜻蛉也 土中ニ生ズト 果実
ニ生ズルハ一類別種也 又稲米ニ生ズ 衣服ヲ蠹モ有 腐ニ生
ズルノ類ハ 有毒 別物也 生ル時 蠶ト云
蛸 木蠶 又キノヒラシ ノ 桑樹 蠶糞ヲ用ル 血出ル病ニ和ス
俗ニ 円ノ茎中 又 柳蠶 色白ク 有節生木ニモ生ス 穴ノ
口ニ 鉄屑ノ如ク 食少シ 虫 蛀中 産後主馬府
ニ黑焼ニシ 梅性 牙歯ニ ヌル 又ハ 馬有 孫勉 良陶ニ 浸ス

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

疫疫ニ傳テ食ヲ禁ズ

蝎（いらくさ）の虫（蝶）

蝶（蝶）の類葉ヲ喰ハ後裏ヲ為

蝶の如花

腹蝎（ミヽハトケ）土中ヨリ形如キ榧ノ実如シ栗色也目ヲ生ス

ヨリ出ル頭如ク少ク蠢動ス也山兒捕之而ハ行也東行

如ト問ハ東面ヲ考ル二行帰リ山兒（アマノジヤクト云）

蜕脱（ぬけかわ）蟬ノ殼ノ形ヲ保ツ蝉ノ殼

蝉蝉（井ゼミ）名称井ゼミ又ハ修稱井ゼミ蝉殼

問或ハ郭井ノ沢ニ生ス形ヲ長四寸ヲ宜作ル

黒腹赤し性淫ニシテ能交ル庶人ハ此ヲ捕テ蝉

今京者雄ト雌ト山ヲ隔テ焼之ヲ媚薬ト云蜻蛉（つくつくぼうし）蝉

住ト云何ヲ知ル者ヲ天水ニ入テ食ヲ交スト云

蝨（ヒル）後の虫（蝨）ヲ去ル中ハ有尋常中

宮也蝨（ヒル）後ハ国毎ニ多ク和名未聞有之

蝉蝉ト名ケ諸所山里ニ皆ヲ形ヲ宮ニ似テ長七寸四足

淡黄色ト淡黒色有紋斑ハ蝉殼色黄甲ヲ出ス

用ル者ハ多ク物ニテ敷ケ以ル所ノ物ハ不上有毒望

皆衣服中ニ隠居ヲ宮有毒ヲ生ス一の怖畏也

蜥蜴（とかげ）青蜥蜴（あおとかげ）色ナキ者ハ蝉ハ捕之則宮皆

蜥有大毒ノ銅蛇（ヒル）国ノ俗称ヲ往ニ黄甲蘭也ニ在

形ヲ宮ニ似テ身痩ヲ粒ノ色古銅ノ如ク不出害

蛇ノ名ハ種類多ク者ヲ命生ニ毒ヲ所作有多

山里ニ出ル長ニ尺四寸ヲ大ハ名二人

宗黄腹色不宜人ハ此蛇ハ形而ハ蛇ノ毒ナリト

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

俗こゝろ　ヤマカガチ　三尺ノ色黑ク又黃ノ色ナルモアリ
腹黃有斑文　体平ニ人ノ近来ル此地池水川中ニ居ニテ
実ノ言ハ聞ル　今ロニ出ツ又手足ニ握ニ等ノ大ニ
ニ見アト内減痩ス麻木　長苦シム其毒甚ダ蛇中
最タリ多キ毒出裏秋秋ハ中毒傷人ハ国俗ノ称
也　赤草ニ巨蟒有ル者知ル夜ノ力ノ智ル和
記曰大蛇目ノ赤破蟒　此蛇ニ大蛇リ山カヽケトモ云ハ
書ニ云ハ大ナル也　青大蛇　青黃色山ニ在又
人家ニモ知ニ住リ手同居其長ニ尺米倉ニ栖者
食米ヲ尺ハ乃大不腸人又青蛇　日限蛇ニ
尺余色黃ノ腹黃色ニ石目ノ文ノ毒ノ強ク
ヤリ其毒ニ中ルヲ即日死ス故ニ国俗ノ服リト名リ仍

山野田中名ヲ呼ナル時ニモ見ル次ノ人無不殺之本草
矯尾蛇又竹根蛇毒蛇　猛ヲ中之者名灸三五壯ナレハ
即毒不消仍以某傷之
無上以艾灸一壯ノ上付留宇尾蛇ノ木毒用敗毒散ニ
然ル後　　烏蛇　遍身黑ノ腹ハ淡黑色
品中紅ノ牙長大ニテ人ノ見テ追来ハ色ハ人名ニ傷ハ赤シ
ハニ株石ヲ赤シハ行當リテ割ハ黑蛇ト云物ニ長
ヲ手指ヲ為某ノ　　地ムクリ蛇　腹黑ク背黑ク
徽青色ノ第腹　法曰ヲ鈍ノ七八寸ノ尺許リ
雨頭蛇　青黑ノ三色ノ本ノ内者ニ在長サ尺許ノ毒
地ヲニ住ヲ宮長ニ宮本毒ヲ夫ニ雷ノ毒ニ蛇毒
ノ毒ニ蛇ノ教カ堤ノ教ヲ

角生蛇　古名保

十七年 丁酉 蒲原郡大面庄高和無屋
圍三寸蛇長サ不和秋全ヲ切ス由あり此之
角ニ生リ長サ手大ク 計目ノ間サ左ヲ目ノ色
黑ク長サ二尺余
補 明和年中蒲原郡鼠庄山湯村ノ農民家
二年所ノ出ラ蛇ノ皮首尾ヲ捕フ由ヒ
此上五六寸色黑赤ク長二尺計
蝮蛇 俗ニマムシト云山里ニ多シ首尾ヲ相似テ長サ
二尺余色黑腹赤キアリ又ハ錦ノ文アリ俗ニ赤蝮
ト云者 全体黑赤ク毒蛇皆毒生 蝮蛇 咬ミ
噬人有刑牙中ニ出テ毒猛烈 疼痛甚腫腐
リテ死ニ至ル或ハ不具ノ者トナル

脇ニ毒アリ吐ク此ニ有刑牙不毒産ニ特産
吋ノ目ノ狀脇牙此噬人咬樹草行前後又殺
之宜猫其類不及 蝮蛇ハ頭ハ尖ク声ノ聞テ辯蝮来
襲ハ是此非実物其比草生化ト云辯蛇ノ如ク生
猪名可知ル 蝮大而有鱗之者為蝮蝮ノ弱屈手指ノ如知
方ノ某ト云陽ニ出ル毒ヲ生ス又蝮ノ国ニ
海ニ浸ト陸化ト云 蝮ニ咬レタル者草ノ葉ノ
白茅ノ葉ヲ用ル法廣病
蝮ニ咬レタル者草ノ葉ノ茅ノ搗テ和シテ付テ其ヲ
白茅ノ葉ヲヨシ又蘇ノ中ニ浸茅ノ
蝮蛇ハ山ハ諸所沼有リ栖草上行此足ヲ
足ヲ人知ル天寿ニ直ニ足ハ力弱キ人噛人ハ

[illegible]ノ蛇ニテ病イヲ治ス不審人薬ヲ新大面左
長澤村ニ者ニ大蛇出ル事ヲ泥水ノ霧ニ成テ
スサマシク大ク長サ幾カモシレス近年出ル年出ル矣沼
新屋敷ヲ〻内ニ新田村ノ奥出崩レ大蛇出ル
左レニツヽ切レテ死ス長サ八間余
蝦蟇ムカデ蜘蛛 鬻不射之斷爛〻又桑計
白塩モ良〻一二オヲ立ル山野ニ有右者ニ成ル
馬陸 和名阿末比古 形如鐵棧仍俗棧虫
[illegible]虫トモ云ノ山ニ在ニ大ナルヲ名山孔虫有毒
蜘蛛 ケケゲケノ毒虫也烟州ニ多ク烟肖ニアルヤウ
ダ人ノ耳及諸穴數中ニ入ル用龍脳ヲ花椒ヲ茶
ニ吹

蜈蚣 ノ如ニ大蜈蚣吹山見陰腫者ハ竹令
婦人吹之或用蜈蚣脳薬水洗服也苦敷即腫消
ニ海上
蠅虎 形三四分常在壁上窠ヲ隔ニ搆ヘ戸門ヲ
開キ出入シ蠅ヲ捕テ甚逸シ色斑斑ナル故ニ得虎
名蠅虎 [illegible]之則不逸其害如朱苗之螟故
蝿躍可敷手蠅
砂梅子 ネハリムシノ而屬出會ハ能鬪ヲ小見以戯ス
和名牛蟲形大牛ニ似テ翅長サ[illegible]倒ニ行テ[illegible]ニ良リ
好テ眠ル不食 [illegible]色首ニ角アリ
叩頭蟲 コメツキムシ ヌカツキムシ ノ貌 確踏者ニ似リ故未踏蟲ト

云低頭形狀青黃ノ故ニ家宝ト称ス付タリ
蠱毒　人家墻壁ノ下土間ノ敷物ノ下ニ生ス
形長尺ニ寸ノ色淡白赤黑ニシテ身扁ノ如蟹甲ニ似
ニシテ脚肉瘡ノ如ク　傷ニ云目洗知古又云物毛良比ト云
瞳ニ入テ瞳ハ着テ血出血出ル腫脹ス痛ミ甚ル国俗常ニ
用テ試ル故俗ニ云ト云
蛆ウジ　市中ニ蠅ノ子ト云夏日塩肉ナトニ蠅来集
ハヤ子ノ生ス処ニ又蠅ノ子ニ限ルヤカラズ切賊壞ニ味ノ
変ジタル物ニ生ズル微虫也
ニヤウグ　形小ニシテ淡赤酒ノ如キ酒著ノ如キニ多ク故ニ
ニヤウグノ名アリ

ニ龍眼木ト訓ス龍眼肉ノ葉ニ似タル故乎
扁木　稀ニ園ニ栽其樹枝葉微小木厚ニ似テ葉
ニ似リ先四ノ本宮ノ長サ一寸七分幅八九分深青ニ
至ル三月白花ノ開ク黄色ヲ帶リ暖実ヲ凍
青ノ実如シ秋熟ニシテ殼自裂テ中ニ赤ク此樹頭
堀府山ノ方ニ常葉木大ナルモノ茂リテ有故ニ坂ノ名
ヲ里人其樹名ヲ知ラズ葛飾木ナル木ノ如ク扁木
ニ似タリ刈羽郡柏崎駅ノ町家ニ峠郡古泊駅ノ新
津屋ノ国香ニ有ル南ニ郡ニ富ル三重ノ塔傍
ニ門ニ栽ル故ニ名ヲ　七月十日新芽葉ヲ
生ス其色
楮カウゾ　此樹不生ル山中産シ又家居ニモ栽木赤印

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

二種ノ葉ハ櫛ニ似テ只ダ不長夏ハ小白花ヲ開其
実櫛ノ子ニ似リ林檎ノ色ハ秋熟シテ子ハ甘又落飢
ヲ助ル白ハ一ノ子味甘リ好白ハ紺ノ子似ニ類シト云木ノ
色白ノ性ヨハリ強シ葉暑細也赤ハ苦ノ子似ニ無ク木
性裂ヤスシ。

梔　**紙**　ニ白梔ノ深山ニ木乃中ニモ似タリ花ニ三度
花ヲ付ル衣染ル梔ニ三度ノ花ヲ付ル中ニモ花ヲ付ル三度
梔紫草ノ根ニ深ク染ル中ニ花ヲ付ル三度ノ花ヲ付ル三度ノ花ヲ付ル三度ノ花ヲ付ル

茅　**艸**　シキミ　野生ニシテ後園ニ栽ル枝葉ヲ佛ニ捧ル葉
白梔ニ似テ厚ク葉ニ光リ有春白花ヲ開キ結実ハ
八角苗香ノ如シ木葉皮皆有香気其ニ抹香ト云佛
前ニ焼。

楠

抽ヒサキ　佐ニ比佐ト云木ト云枝葉ノ汁ヲ用テ布ヲ染
ム黄色也。
抱骨　諸郡往ヒ有リ**樹**枝有刺高サ丈余ニ及ブ者
周囲二丈ノ中月ニ白花ヲ開ク記氏ノ土佐日記ニ節ク
多春大戦ノ枝ニ名吉ノ歌ヲサシテ門ニ置テ見ル
ヒ

櫛　クシキ　日本紀歴木和名抄ニ拳**樹**クシキト訓
當国ノ俗**櫛**林檎ト云依郡山里皆ヲ櫛ノ如ク
維ノ如ク櫛ニ葉ハ常ノ樹ヲ葉小クシテ
長シ青栗ノ花ノ如ク長キ房ノ花ヲ開キ結実形椎
ノ子ニ似テ短ク櫛ノ実ノ如ク粉ニ磨テ焼
ニ作リ食ヲ飢ヲ助ル櫛ハ性暑**樹**三四ヲ屋材トス

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

樗割杖トシ苧トシ裏住吉ノ内ノ佐ニ赤蘇ノ汁ト云
乾テ冬ニトルカ二為シ服シ腫物癰疔ノ治スル又膏
薬ニ製スル法ノ為シ布ノ深キ茶褐色ト成根州池田
産トテ世ニモテ用ユ此木ヲ用ヒテ夫一合ト云里ニテ焼
出スト云リ

水楠 樸樹 産地ノ角ニ位ノ苔有ル樹也 **槲** 向類也葉微
狭シ其ノ花ノ元ノ花穂ノ形大抵槲ニ同シ子ノ粉ヲ
餅トシ食ル時槲ノ如シ故ニ不申共ノ苔ト云ル水楠
俗称也

牛楠 俗称也葉ノ形山ニ里シ楠ノ如ク夏結実俗
ニ豆栗ト云牛蒡ノ実ノ如シ亦栗ニモ仏様ノ
カミモ ムクリツケ也 **大樹** 三ノ不生年 刈テ深ト云 根ヲ優也

大二人計リ有ニ多生ス又年実ノ時ノ比ハ
此ハ神社ニ江戸ニ多ク其色濃紅淡紅黄紅或半
白斑又紫ノ如ク美色ナリ

柏楠 槲楠ノ一類也 **山** 里ノ樹石ニ多不申共只称
トスルハ俗称也葉大ト木狭ニ毛有リ色ハ濃ニ刻鋸
状有テ冬ニ枯ル 枝ヲ猫 在木歴雪霜望考
ト不落里人花ヲ開ク花実共ニ水楠ニ同シ只
ト形大ニシテ長サ寸許アリ此ノ花ノ稲ノ如ク多ク実味甚
旁ケ此葉ノ葉ナル故糯米ノ粉ヲ餅トシ中ニ小豆ノ
餡ニ入レ粽ニ巻キ今ノ色ニ似タル葉ニ巻キ蒸シテ甚
美ナリ柏餅トモ葉ノ生ル年ノ深ク青ク茂ル也 端午
粽ノ製ハ此ニ倣ヒ是ヲ作ルヨシ柏餅ヲ代トス 篠キ

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

力故也

栗柏　佐渡也　榧ノ白数也　葉栗ニ似テ厚ク微大ク花実多結ス　橘氏実ニ用ユル　又橘榧柏椒

柳ノ白数也　葉ニ似テ厚ク微大ク花

柳ノ白数ノ称ニ諸書ニ云フ如

考ニ葉実共櫻ニ異也

櫻　諸国山ニ村里ニ多ク有ル木大樹ニ成ル也　性強ク丈夫ニ成ル也　俗ニ桜ト云

古別ニ里桜也　又一ニ云本艸云作家作業

櫻　一ニ樺ノ白数也　葉ハ相月ニテ互ニ別ル　江陵家

説曰……葉不見花ニ樺ニ似タリ　樺細也木又事物也

榎山野里皆アリ大樹ト成長寿ノ木也　葉栗ニ似テ也

芽出ル初ノ葉ノ物ハ考飯ニ成テ食時佳胃腑黄

白黄花ノ開実ノ説大サ如椒八月熟ス色黄赤甘

ニ小豆食ニ無害　椋鳥鶏鳥書ニテ食ニ其ヲ夏南

ニ来テ乾柿ニ喰ニ物メクラムニ実ニ入テ良佳常

ニ試ル処也木ノ焼テ灰ニ中風ノ病ヲ癒ル治ス是亦

傷寒ノ試也漆瘡ニ葉ノ浸汁ニテ良新漆器ニ葉ヲ

入レバ毒気ノ去ル材トナスト新ノ器ニ上ル焼テ熱ヲ畑

少シ

茗荷樹　諸郡佐ニ有　樹松根如ク又椋ニ似リ其実

大条ニ大許実ノ説ノ長ニ寸計幅四寸計ノ柳葉

感実生葉ノ背ノ如ク生ル其下裏ノ事計ニ長

サ四ニ寸ノ細キ茎ノ相ヲ其先ニ花ヲ如ク

有実ノ如ク又ノ葉ハ此葉葉之毒此説ニ有

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

葉有て小葉ノ上ヲ蔽フ故ニ雨露ニ不濡花鳥ノ
樹もさし此ノ浜ヲ奇トスル也葉皆吉志郡長岡宗
源寺ニ在磨ヲ名珠トス四ノ節アリ天竺菩提子ニ異
大変さし只形ノ小大ノミ　三鶴郡与板徳昌寺境内松
山井之中同郡左源沢村蒲原郡雲田庄尼桐村
松樂寺ニ有大樹同郡光明庄山栗山観音別當不動
院境内ニ同庄九ノ曽根村ノ神社ニ有日郡菅名
庄石曽根村金ノ丸ニ日郡泉庄山ノ村善興寺
ニ有大樹塩谷野山ニ有名珠濯寺出物方ヲ始敷色
異系有但之黒御河州生動山ニ出大小色浅
白有也ノ現ノ元亨釈書曰僧栄西国師入宋帰朝建
久六年著菩提樹ノ実ヲ将来能為番桃神宮ノ側

植報恩寺ニモ植又元久時建仁寺ノ院ニ栽自是天
下ニ分栽諸国ニ菩提樹多云、栽西将来ノ菩
提樹世尊成道之正覚樹ノ求那跋陀羅ト云人天
竺ヨリ将来ノ摩訶ニ栽置シヲ其後道元和尚是
ヲ天竺ヨリ四明天台山ニ栽仍栄西此種ヲ本我朝ニ来
翻譯名義集ニ云ハク三株木ノ中ニ三ヲ菩提樹ト云
云即畢鉢羅樹也菩提ハ仏ノ也言数万人屋宅ニ
代植言ヒシ天仏世尊ノ下成道正覚国師ノ謂ヒ菩提
樹ト言ヒ幹黄白枝葉青翠ニ春夏不凋光輝無
変如至涅槃之日葉皆凋落頃之復故　法苑云
迦樹名阿市多羅
木患子　蘭奢那弥庄　庄属村清傳寺ニ有ル百庄

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

戸部村長ノ家ニ其母樹ト有ニ梅大系ニ大木成
葉唐楠ノ如リ五月白花ノ開キ実ヲ結ブ蒴ニ桐実
ノ如リ黒ヲ殺リ有穴大サ如若。
欒（ムクロジ）　三島郡蒲原郡ニ多ク有樹生長ス枝朝（ヒヲ）ヘ
蔓ノ如シ葉ノ槐ニ似テ相對ス五六月淡黄花ヲ開キ実
ヲ結ブ黄ニシテ熟有皺文其中ニ有テ円ク黒ク甚
堅硬也　童女数金一孔植鳥之羽ニ小枝ヲ刺上ハ
頼リ頼ル渭之羽ヲ正月ノ幣ヲ　皮ヲ為洗衣末
又其色白延命皮
總木（ムラ）ノ此木茅ノ梢乗ル其此茅不再生此木黄
黄屋ノ梢ノ巻ニ入リ又箱ノ施（ホドコス）ニモヨシ本仲ニ
見エタリ

樣（ハンノキ）　諸郡皆有花葉栗ニ似リ。皮ヲ為ニテ絹布
ヲ染又用梅木為汁其中ニ投此木腐徒宿心深赤色。
拘栗（ブナ）　深山ニ多端山ニ不生此木甚長大ナル枝
葉樺ニ似リ密有ニ不位水有土ニ有テ早腐事
薪トス又鍬ノ柄雪ノ合フ山鞋ニ製ニ堪タリ奥山ノ人除
泡（ホウ）ル処ニ做屋ヲ造リ居テ生木ヲ用テ製又実ハ三角ニテ
味樣ニ似テ美ナリ俗ニ深山橋木ノ子トモ云フ
黒毛若（クロモシ）　黒毛（クロモチ）
八手木ノ毒有ル鮒ニ交ルト俗ニ云フ
世登安（セトヤス）　鬱子木（ムツケ）一名柘ト云フ立花師愛之黄
梅ト称ス
檀（マユミ）　山野往々ニ有リ樹石長大葉蔓梅媒成リ

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

夏小花開キ結実無ヲ敷然黄ニ裂テ中ノ子赤葉
ニ落木堅ク細密色黄白ノ美也細工ニ用
テヨシ

桂 ヤマヒラ 和名抄美作国桂也 諸山皆有ル高樹也
山村里ニ有ル高樹也 葉似ル
花開葉槐ニ異似リ
オウコ 諸郡皆有 庭園ニ栽樹形枝葉共ニ槐ニ似ル
又椹ニ似リ葉和ナリ 当国ノ俗ニ云此木ヲ用ヒ物ニ作ル云
椒木当国ノ者右ノ條ノ能ク知リ知見花実
決シ多也 諸山皆有大樹也 皮白ク枳殼ニ似リ葉有缺
五角七角 計リ尖リ有テ大抵雞冠木葉ニ似リ同数ナ
ヒシ 枝ノ末黄ニ変ル材ニ不成故ニ新ク其使

ヤシヤビシヤク 二云 ヤシヤムシヤク 深山中大木上ニ青色佐
ニ鷹ノ爪葉ノカリシ如ク宿リ木上ニ云 高二三尺葉ノ状牧所
ニ付ル蔦ノ葉ニ似テ淡緑色也出ノ小白花ヲ開 暗梅花
ニ似リ実ヲ結ブ鶯上ニ居ノ子ノ如シ三ノ毛ヲ未知見名称佐ノ
試ニ痢気淋疾ニ良上云
山桃 ヤマモモ 四月上旬花ヲ開ク開テ立出白
シヤクノ如ク旬白花開ク小花穂ニ多リ花香気一ノ愛

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

巻之十一　山鳥

鷹　諸国賢山林に棲峨巖に人倫不通の処に窠
を作延享五戊辰年四月中旬歌舞伎役者田中
常三郎白鷹黄昏に鳥の取綱に掛て白文三方八寸
尾羽十三枚ありて鷹の尾十三枚なり物語抜ト
秋田杉物語巻之
柳実とは山藤の花なり毎年四月三日頃に
長作竹に柳上乃市場に花を挿て
八幡宮へ献ずる也此物語を作り物として
中昔の人丁寧なれは清て勝ることいふ
ふき宮参りの日毎に田舎なれ所に住る
ひとつ物語ありいまの世にあるまじ

きまの所きこと多く成説なりいまの意
ふきの中にて宮参りの時に婚れの為に
用ふるものなれとも公家武家物語の
事なれとも法式物語のたる
事なり都花といふは上臣常
めしのくせもふかなめ所の作
奥書の中にあれ書きとも
上臣氏物語の大ともなり
きの例なり此所の流を清
原氏三条の大納言なりしと
なるまとはかりの所を
ふ解して大なるを所に書

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

金剛子　出羽国　俗名　金剛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

スベトウ又国ニテ蕎ノ一ニテ地ニ撒ク

○蕎麦樹 風乃樹ト云ヘリ

○ニ十編目 花鏡作蕎麦樹 無憲ト面ノ木穂ヲ（流志南ヲ）

木綿ヲ作ル俗呼ノ又ハ又ハ又ハ

ニ蕎麦ヲ別テ和蕎 洪憲 西雅ト名ル壓屋ノ年殊ト

作ル蕎麦ハ城ニ為ル番ハ穂ヲ名殊ト

○蕎ノ一種 西雅 ニ長蕎麦 ○蕎麦ノ一種 理生 穀蕎麦 殊ヲ憶ル 蕎

只蕎麦ノ実ノ皮 戯 俗ハ志ヲ川 スハ 穀 蕎麦 ト又 類 穂 西 ト又

ノ一種 実 稍 扁 大ニ志ヲ黒 穀 殊 ヲ 殊 ヲ 和 類

穀 ニシテ二種共ニ蕎麦ノ下品ニシテ 蕎麦 和 鮮

麦ト呼 穀 穀 ヲ白色ヲ殊ト為ニ 蕎用

○蕎麦 把又有書ニ別ニ蕎 旋 桃 柳 ヲ 麦 穂 柳 而 ヲ 其

国立国会図書館

西雅 ヲ云ヒ別ニ旋桃柳ヲ云ヒ柳ヲ天竺ボ桃樹ト号

メ陸ノ茅ハ毛ヲ生ス

○蕎花 花紅ヲ娘 虫 殊 微 香 日 侵 ニ 枝 特 ト 呼 其 実 亦

一名 牧十 枝 裏 旦 用 ヲ ヲ 殊 ト 為 亦 蕎 ト 実 旦 云 設 裏 蕎

陳 菜 用 ヲ 載 セ ヲ 西 来 蕎 蕎 ヲ 名 陸 ヲ 蕎 ヲ

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用

国立国会図書館　虫類木類秋田杉物語抜書 W391-N34

ガラス使用